



# 海外の緑化事情 オランダ

オランダは、九州より少し小さく国土の大半が海抜0m地帯という山岳の日本と比べると、かなり環境が違います。海抜0mという水の国と異なり、その地帯を利用しているのが、有名な風車です。

ヨーロッパ各国の貿易が盛んになると、ウオーターフロントとして栄えてきたロッテルダム。近年では航空便の拠点となるハブ空港として、スキポール空港も有名です。この様に貿易が盛んな国ですが、やはりメインは農業国です。

風車も農業に活用されていますが、近年のIT革命によって、IT農業（スマート農業）の先端国としても有名です。

こんな緑の国とも思えるオランダでの緑化事情は、日本とは少し違います。もちろん緑化を増やすことで、地球環境に優しい国づくりという基本的なスタンスは同じです。

オランダ市街地では、「雨水は素早く排除する」という方針でした。しかしながら日本とは違い、インフラ整備が遅れており合流式下水道（生活污水と雨水が同じところを流れる）が旧市街地にはまだ多く、集中豪雨で容量オーバーとなり、汚水が川や湖に溢れるという問題があります。そのため、インフラを整

備して雨水を汚水とは別水道へ排水する。分流通水道法という補助金制度で雨水を貯留、浸透させるのは蒸発させて排水パイプ（下水道）への集中的な流量を緩和するという考え方が採用され、土壌に水を保持するために利用されています。一般的になつてきたドイツでも同じように保水としての屋上緑化が盛んです。国土が違いますが、これまでも歴史もありません。街の発展は石畳がヨーロッパの特長です。日本は地道で発展したもので、下水道の整備が行いやすかったこともあります。

この様に、雨水処理の工程としても役立つ緑化。日本とは違います。ドイツとは違い、用途ではあるものの、植物の蒸散作用の効果も期待できます。

手段や経路は違っても地球温暖化の緩和という目的は同じです。

日本は独自の発展を遂げましたが、ヨーロッパと肩を並べる緑化大国となるよう、大規模の緑化システムを拡充していきたいと思えます。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社06-6909-6755 までお願いいたします。

## スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で対応させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

いつもお世話になっております。大日化成株式会社 東京支店営業部の小林大晃と申します。

10年間程大阪の某スリーパーで働いておりましたが、昨年の10月に大日化成に入社させて頂きました。防水や緑化関係の仕事はまだまだわからないことばかりですが、新しいことを学ぶ毎日ですが、すこしずつ仕事に慣れてきましたし、やりがいのある大事な仕事だと日々感じています。

職場の雰囲気もとても良く、先輩方に忙しい中でも時間を割いて教えて頂いています。自分が以前の職場で先輩にここまで指導していかなくていいのかな、と反省することがあります。

食生活も、以前の職場で提案に来て頂いたもので、この機会に色々試してみたいなと今感じています。実際に目で見て聞いて、少しでも早く仕事に関する知識や経験を身につけて、問い合えるようにしていきたいと思えます。ご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、



東京支店 小林大晃

せんが、今後とも宜しく願います。

個人的な事を書かせていただきますが、入社するにあたって、出身の大阪府から千葉県の方へ移住しました。子供（男の子）も生まれまして、現在4か月になります。独身で日々から、この1年の間に生活が一変することになり、第2の人生を歩んでいる感覚で過ごしています。

生まれの子供は、両親とも体が大きくないにもかかわらず、4か月で約7500gと、少し大きめ成長しています。大きくなったら一緒にサッカーが出来たらと思っています。

最後になりましたが、以前の会社で学んだこと、今後学んでいくことを活かして皆様のお役に立てるように頑張りたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

## DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社  
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13  
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店  
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F  
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803



次号も  
お楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

## 映画で学ぶ 環境問題

シン・ゴジラ



監督：庵野秀明（総監督）  
樋口真嗣（監督・特技監督）  
出演者：長谷川博己  
竹野内豊  
石原さとみ  
上映：119分  
公開：2016年  
配給：東宝

ご存じ、日本が生んだ世界の「ゴジラ」。本作で明らかになります。漢字では「呉爾羅」と書くそうです。このゴジラ人間が大量投棄した放射性物質から生まれた怪物で、関連作品は、渡辺謙も出演のハリウッド作品を含め、国内外で何度もリメイクされました。

そのため、製作発表当初は期待されていなかったという本作。というのも、スマホが普及するにつれ映画館から遠のく若者に対し、ヒットしたゴジラを映画版にする手法が乱発されてきたため、今回も内容が薄いのではと不安視されたからです。ところが意外

にも、本作を含め昨年は邦画界で大ヒットが連続！

その代表作は「聖地巡礼」という流行語まで飛び出したアニメ映画の「君の名は」。関連書籍も大ヒットし、ついに興行収入200億円を突破しました。

本作「シン・ゴジラ」も「君の名は。」と同様に予想外のヒットということ、「何がそんなに面白いのか？」映画館で検証してきました。もちろんゴジラそのものが、放射性物質の投棄により生まれた怪物という点で「映画で学ぶ環境問題」執筆としての任務を果たすためにです！

まず、前評判で話題になつていたの

「延々続く会議シーン」。どんなにダラダラ会議が続くのかと思いきや、実際にはスピーディーに展開していったので意外に爽やかでした。会議だけでなくセリフも含め全体がスピーディーで、良く言えばテンポがあるものの、悪く言えばあまりにも早すぎてゴジラの脳が内容を理解できません。結果的に「もう一度見てみたい」欲求に満たない（？）何度か映画館に通うリピーターが増えたようです。

また、役人や政治家、御用学者がこぞ議論をずるけれど、結局は何の結論にも至らず、軋々と改組を繰り返すあたりは、エンターテイメントというよりはドキュメンタリー実録、もしくはブラックユーモアといえる程、日本の政治家や官僚組織のあり方を的確に表現しています。こんな映画、今まで無かった！

当然、根底にあるのは核・放射能に対する批判。会議での「謎の現象（生物）」を「福島原発」に置き換えても通用するほど。とはいえ、放射能のリスクを軽視しすぎたあまり、怪物を産み出した人間に対する批判の象徴ゴジラが「福島原発」をほうふつとさせるのは残念なことです。なぜなら、ゴジラの誕生の昭和29年には、まったくありえなかつた現実ですから。

そういった意味で、珍しく「子供には難しい」大人向けのゴジラ作品でした。

ストーリーは非常に単純で、東京湾に謎の生物が現れ、町を破壊し多くの人間が犠牲になる中、総理以下、多数の政治家や役人が右往左往。そこにアメ

そういつた意味で、珍しく「子供には難しい」大人向けのゴジラ作品でした。

本コラムの勝手な解釈ですが、シン・ゴジラの「シン」とは、正真正銘オリジナルのゴジラの意味の「真」と、「新たな」の「新」、そして今の日本人に「本当にそれでいいのか？」と問う「辛」など、様々な意味合いが込められていると思われませんが、皆様はどう感じるでしょうか？

さて、昨年には「日本がインドに原子力発電を売り込む」と報道されましたが、国内の福島原発も完全にコントロールできない我が国が、外国に原発を売り込むのかと頭を抱えてしまいました。

なお出演者リストに「野村萬斎」の名前が出てきて、さて彼はどこで出ていたのか不思議に思っています。なんと！日本を代表する狂言師・萬斎氏が、かのゴジラだったのです！